

2023年9月30日

短期海外研究出張報告書

南山大学長

ロバート・キサラ 殿

所 属 外国語学部

職氏名 教授 上村直樹

受入研究機関等：オーストラリア国立大学戦略防衛研究所およびヴィクトリア大学戦略研究所（ニュージーランド）

期間：2023年6月4日～8月31日

目的：「同盟と核軍縮のジレンマ：日本、オーストラリア、ニュージーランドの市民社会と対米同盟」に関するオーストラリア及びニュージーランドでの調査・研究

本年6月4日から9月2日まで標記テーマに関する調査・研究をオーストラリアおよびニュージーランドで行った。オーストラリアでは、6月5日から7月17日までキャンベラ市にあるオーストラリア国立大学戦略防衛研究所（Strategic and Defence Studies Centre, Australian National University : SDSC）において客員研究員として、ニュージーランドでは、7月19日から8月31日までウェリントン市にあるヴィクトリア大学戦略研究所（Centre for Strategic Studies, Victoria University of Wellington : CSS）において客員研究員としてそれぞれ調査・研究を行った（6月4日、7月18日、9月1～2日は移動日）。

両研究所においては、それぞれ所属研究者及び本研究に関係する大学関係者等との意見交換や研究会への参加を積極的に行って自らの研究を深めるとともに、政府関係者や NGO 関係者からの聞き取り調査を行い、併せてシンクタンク関係者とも意見交換等を行った。また両国の国立公文書館（National Archives of Australia と Archives New Zealand）においても、資料整理や公開の進んでいる1980年代から1990年代について資料調査を行った。

今回の両国での調査・研究においては、安全保障政策の中に核軍縮政策を位置づけることも重要な目的の一つであり、両国において核軍縮関係の調査・研究と並んで研究対象期間における安全保障政策の展開に関しても精力的に調査・研究を行った。ちなみにその点の成果は、今回の研究出張の最後に CSS において「Three Recent National Security and Defence Strategies from Japan, Australia, and New Zealand : A Comparative Analysis from a Perspective on the Security Dilemma」と題して研究発表（8月30日）の機会を与えられ、多くの貴重なコメント等を得ることができた。今回は、全体として極めて充実した調査・研究となり、今後の研究の発展にとって多くの貴重な知見を得るとともに、必要な資料を収集することができた。